



## 【運送業 DX 入門】まずは“デジタル化”から 現場のお悩みを DX で解決！

### 【記事の要点3つ】

- ☑DX(デジタルトランスフォーメーション)とは、単なるデジタル化ではなく、各業務システムを連携させることで会社全体の仕組みを変える取り組みである。
- ☑運送業の現場には紙・エクセル管理や情報の分断など多くの課題があり、小さなデジタル化から始め、課題ごとに効率化することが DX への第一歩となる。
- ☑現場ごとの“点”の改善をシステム連携という“線”でつなぐことで、会社全体の業務効率や経営強化につながり、経営と現場が一体となった運送業 DX が実現する。

本記事では、運送業における DX(デジタルトランスフォーメーション)推進の基本的な考え方と、実際の現場で役立つデジタル化のステップについて解説しています。

DX は「新しいシステムを導入すること」と誤解されがちですが、実際には業務ごとの小さな課題(紙管理や転記作業、情報の分断など)を、デジタル化によって一つずつ効率化し、やがてそれらをシステム連携によって“線”としてつなげることが重要です。

例えば、運賃計算や請求、点呼、労務管理などでそれぞれデジタルツールを導入し、そのデータを連携させることで、現場と事務・経営の垣根がなくなり、会社全体の動きがスムーズになります。これにより、属人化や情報共有の問題が解消され、数字に基づいた経営判断やドライバーの働き方改革にもつながると強調されています。

DX の取り組みは、まずは現場の“できるところから”始め、点を線で結ぶことで、経営強化と業務効率化を両立する未来を目指すべきであるとまとめられています。

元の記事を読む



株式会社タイガー  
東京都千代田区神田猿楽町 2-1-14 A&Xビル 2F  
<https://www.tiger-inc.co.jp/>  
03-5283-7232

物流ソリューションエキスパート

